

大学における福祉系被服教育の試み

小山 京子

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第49号抜刷）

報告・資料

大学における福祉系被服教育の試み

An Attempt of a Class of Dressmaking for Special Needs at College

小山京子

はじめに

美作大学生生活科学部、福祉環境デザイン学科（以下、「本学科」とする）に所属する筆者は、数年来高齢者の衣服についての研究に携わっている^{1)~4)}。

4年前に設置された本学科は、社会福祉士を目指す「社会福祉コース」と、一級建築士を目指す「福祉建築コース」に分かれており、「生活に根ざした社会福祉士を育てる」という観点で作られた「社会福祉コース」では、2年生後期に2単位の「福祉デザイン（衣）論」を、3年生前期に1単位の「福祉デザイン（衣）演習」を学ばせている。

2年生の「福祉デザイン（衣）論」では、高齢者、障害者に適応する快適な衣服設計を行うために（1）被服デザインの基礎、（2）人体と被服、（3）被服のデザインなどについて学ぶ。

3年生の「福祉デザイン（衣）演習」では、2年生の「福祉デザイン（衣）論」を基礎に、誰もが着用できる衣服としてのパンツの製作（学生各自のパンツ製作後、車イス使用の高齢者のパンツを製作）に取り組むことを計画した。このことで、パンツを製作することによる「ものづくりの大変さと喜び」と同時に、プレゼントして「喜んでもらえることへの喜び」を体得させ、今後、福祉の授業を受けるにあたり、「高齢者の気持ちの理解に少しでも役立たせたい」と考えた。

そこで、この演習の授業を通じて得た学生の反応を基に、「大学における福祉系被服授業の試み」について考察した結果を報告する。

方法

「福祉デザイン（衣）演習」の受講生は昨年度7人、本年度4人である。本学科学生の被服授業は、主に高等学校家庭科教員志望者に対して2年生前期で「被服構成学実習Ⅰ（洋裁）」、後期で「被服構成学実習Ⅱ（和裁）」の授業はあるが、社会福祉コースの学生の選択は少なく、ミシンを使うのは中学校又は、高等学校以来久しぶりの学生が殆どである。

授業計画を表1に示す。完成したパンツをプレゼントさせていただいたのは67歳から99歳までの11人の女性である。終了後、学生にレポートを書かせ、その結果を分析した。

結果および考察

「福祉デザイン（衣）演習」で、学生は各自のパンツを製作した後に、車イス使用の高齢女性のパンツを製作してきた。その後提出したレポート、着用者・施設担当者の感想は次の通りである。

1 授業の感想

(1) オリエンテーション

- ・高齢者が着るパンツと自分たちが普段着ているパンツとどう違うのか、その快適性の違いについて知りたかった。
- ・障害者と高齢者の衣服に関して興味があったので、半期だけががんばってみようと思った。
- (3) ~ (4) 施設を訪問、高齢者の計測（写真1, 2）
- ・施設に行き高齢者と直接接することができてよかった。

表1 授業計画

1. オリエンテーション	授業の目的、内容、計画を説明して各自に自覚を持たせる。
2. 各自パンツの計測	被服の授業としてのパンツの製作に対して各自が互いに計測を行う。計測は胴囲、腰囲、股上、股下、股上前後の5箇所である。
3. 施設を訪問し高齢者に面会	事前に依頼してあった市内の特別養護老人ホームや老人保健施設に出かけ、各自が希望する条件にあう人（基本はおしめ着用者で車イス使用者）を施設の担当者（看護師さんや寮母さん）に選んでもらい、直接会って自己紹介、今回パンツをプレゼントすることの経緯など話しをする。
4. 高齢者の計測	再び訪問して計測をさせてもらう。計測は胴囲、腹囲、腰囲、股上、股下、股上前後、足首囲の7箇所である。その後、グレイの台紙に貼付けた10cm×20cmの生地見本から好みの色、柄を選んでもらう。素材の殆どがポリエステル100%で、組織はニット地である。
5. 各自パンツのデザイン	自分のパンツのデザインを決め、パターンから型紙を作製し、素材の検討を行う。
6・7. 各自パンツの製作	各自パンツの製作をする。
8. おむつ着用計測	事前におむつの説明を受け、黒のタイツやスパッツの上から紙おむつを着用し、寸法の変化や着用感を見る。
9. 高齢者パンツの型紙を作成	4で計測した寸法に基づき型紙を書く。股上前後の不足寸法は後ろで切り開く。
10~12. 高齢者パンツの製作	4で選んでもらった布地を裁断し、高齢者のパンツを製作する。
13. 施設を訪問して、ウエスト、丈などチェック	試着してもらい、ウエスト、パンツ丈など最終チェックをする。
14. 高齢者パンツ完成	ウエスト、パンツ丈などを完成させる。
15. 施設を訪問して、パンツをプレゼント	完成したパンツを施設に持参し、「ひとことの手紙」と共にプレゼントする。



写真1



写真2

- ・高齢者と接した時、会話は何を話したらいいのか、コミュニケーションをどうすればいいのかとまどった。
- ・「おいくらですか」と聞かれる。無料だとわかると泣いて喜ばれた。高齢者にはお金の問題はとても大きな関心事であることが分かった。
- ・生地を選ぶ時「どれもきれいな布だわ」「どれにしましょ」と笑顔で言いながら布を触っている姿を

- 見て、私までうれしくなった。
- ・世代によって色柄の好みが違うことが分かり、楽しそうな柔らかな顔で選んでいたのが印象的だった。
- ・計測はとても計りにくく、健常者の場合と違う難しさを感じた。
- ・車イスに座ったままや、パンツやオムツをつけた状態で計測しても大丈夫なのかと思った。

- ・何度も名前を聞かれ、「高齢者がパンツを作ることをどの程度理解しているのか」「次回来た時に覚えてくれているのだろうか」と大変不安を感じた。

(6) ~ (7) 各自パンツの製作

- ・ミシンで縫う作業も、一つひとつ苦戦しながらだった。
- ・先生や友人に何回もミシンのことを聞きながら、少しずつ縫い、完成し、はいた時、何とかパンツになっていたのですごくうれしかった。
- ・今回作ったパンツはダボッとしていて履き心地もよく、作りたての頃は友人に自分で作ったことを自慢していた。

(8) おむつ着用計測

- ・はいた瞬間から徐々に暖かくなり、夏は大変暑いのではないかと思った。
- ・冬は暖かそうであるが、夏はムレそうである。
- ・あれだけ熱がこもると、排尿時等、温もりでにおいがきつくなならないのか。
- ・立っていても足を閉じることができないし歩きづらく、座るのにも座りづらい。

- ・着用することで違和感があり、フィット感がないように思う。

- ・実際に水を入れてどのくらいおむつが重くなるのかということも体験してみたかった。
- ・おむつをはくことにより、パンツの後ろは深くゆったりしておかないと、車イスに乗った時おむつが出てしまうかも知れないと思った。

(9) ~ (12) 高齢者のパンツ製作 (図1)

製図⁵⁾は、腰囲102cm、股上28cm、股下57cm、股上前後80cmのAさんのものである。12cmの股上前後の不足寸法は、後ろパンツのヒップラインと股上線を切り開くことにより補う。

- ・見た目には小柄でとても細い人であったが、採寸を基に型紙を作った時、「こんなに大きいの」とびっくりした。
- ・「あんな大きなパンツ誰がはくの」「こんな形はありえるの」と思い、股上の長さにも驚いた。
- ・「本当にこれであっているの」と不安に思うことが

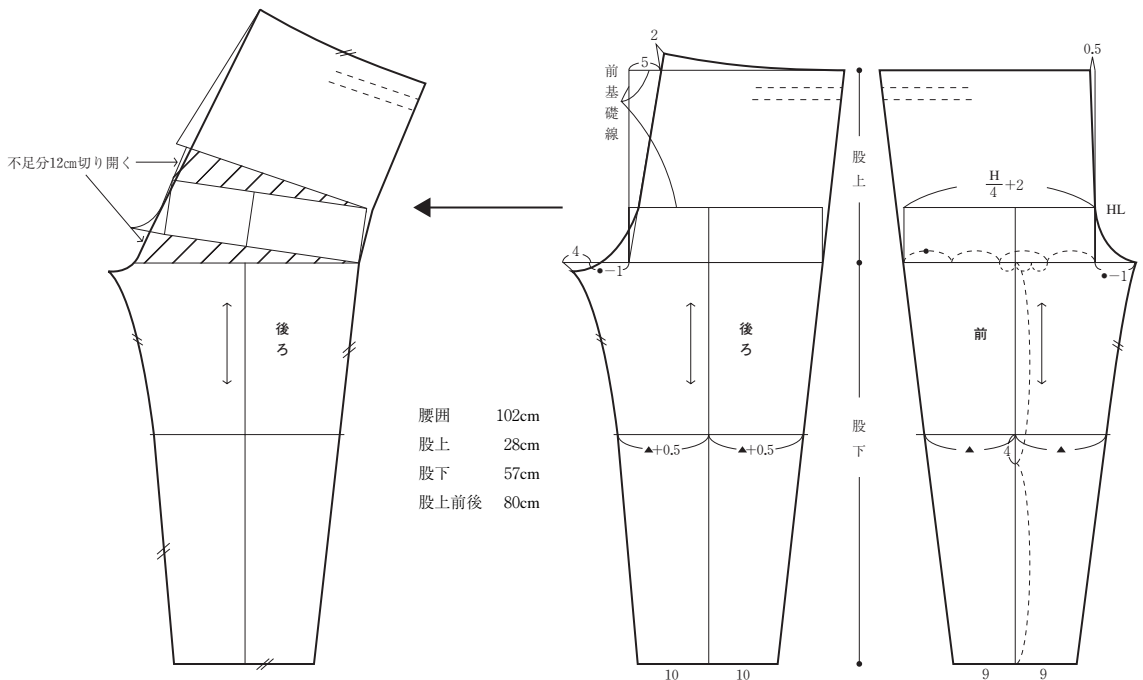


図1 パンツ製図

何度もあった。

- ・失敗せずに最後まで完成させることを願いながら作業した。
- ・実際に高齢者と交流を持ちながら、自分で採寸させてもらい作っていったので、「本当にいいものを作りたい」「喜んでもらいたい」という気持ちがどんどん大きくなり、誰かのために何かできるということが楽しかった。

(13) 施設を訪問，ウエスト，丈などチェック

- ・「肌ざわりがよくていいです」と言われ、気に入ってもらってよかった。



写真3

- ・最終チェックの時、「すそが細くてはきづらい」「座った状態が長いので、股上を少し長くして欲しい」と施設の職員から言われ縫い直しをした。そういうやりとりの中で、いろいろな人たちとのコミュニケーションの重要性を強く感じた。

(15) 施設を訪問して「ひとことの手紙」と共に完成したパンツをプレゼントする (写真3, 4, 5, 6, 7)

- ・はいてもらって、喜んでもらえてうれしかった。
- ・製作途中は「これであっているのか」と不安であったが、着てみてもらって「ほんとうによかったんだ」と納得した。
- ・作ってよかった，気に入ってもらえてよかったとうれしく思う。
- ・「本当に持ってきてもらえるとは思っていなかった」と言われ、手紙を読んで名前を何度も確認され、と



写真5

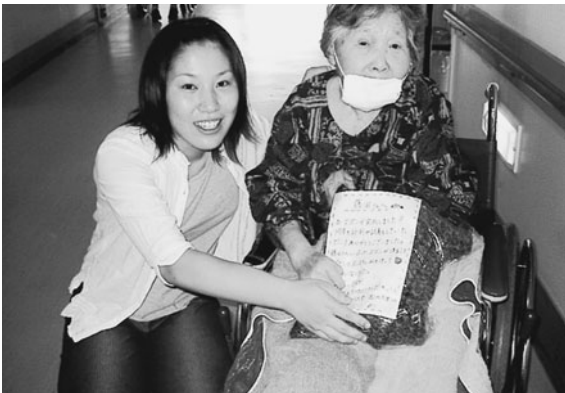


写真4



写真6



写真7

でもうれしそうな反応を示され、作ってよかったと心からの満足を覚えた。

- ・手紙は、「読みやすいように大きな字で縦書きにしたことがいい」と職員の方に言われ、「悩んで考えたことが無にならなかった」と大変うれしく感じた。

2 全体を通じての感想

- ・実際の入所者の方と接し、実践的な演習ができて、大変勉強になった。
- ・施設内の様子やスタッフの動きなど見ることができ、色々な知識を得ることができた。
- ・体型や生活環境に合ったものを作るということの大変さと大切さが分かった。
- ・自分が体験してみなければ新しいことに気づかないし、自分の技術、知識にもならないと思う。
- ・普通サイズのパンツははけないなど、多くの問題を、自分の体を通じて感じるすることができた。
- ・おむつをはいている人が抱える衣服の問題など勉強できて、意味のある授業であった。
- ・今後は、「子供のおむつ改良だけでなく大人のおむつ改良もどんどん進んでいけばいい」と思った。
- ・自分にできることをして喜んでもらえる人がいるということを、このパンツ作りを通じて確認ができ、人間どうしの関わりの大切さを学ぶことができた意

味は大きい。

- ・市販の服を選ぶときも、小さかったり大きかったり、長さが合わなくて手直ししなければならないことや、自分の好きな柄や色がないという問題点が多くあることを知った。
- ・将来、自分の祖父母や両親の体型等が変わり、衣服選びに困った時には、この体験を生かして「その人の好みの衣服製作ができればいいな」と思う。
- ・高齢者の方たちも大変喜んでくださり、「作ってよかった」と思うと同時に、「もっと勉強してみたい」と思った。
- ・おしゃれが高齢者の生きがいの一つになるのではないかな。
- ・障害を一つの個性と考えるならば、その個性を生かしたおしゃれができるはずだ。今回の衣服製作はそのことを肌で感じさせてくれた。
- ・高齢になってもやはり女性はおしゃれをしたいと思う。化粧をすることで高齢女性を癒すメイク・セラピストがあるように、「衣服でもできる」と思った。
- ・障害を持つ人にも、どんどんおしゃれをしてもらって、よりいきいきとした生活を送ってもらいたい。

3 着用者の感想

- ・津山市の高齢者表彰時にはいて行きたい。
- ・お盆に家に帰る時にはいて帰る。
- ・色柄も気に入っている。
- ・既製品のすそを、いつも適当に揚げてもらっていたが、丈が短くて良い。
- ・学生さんが縫ってくれた、その気持ちがうれしい。

4 施設の担当者の感想

- ・皆さんよくはいておられる。
- ・股上の長さもよく、洗濯しても型くずれしない。
- ・乾燥機にかけても毛羽立たない。
- ・しわになりにくい。
- ・股上がもう少し深い方がよい。
- ・危険防止の為、足首が出ないように丈を長くした方がよい。

訪問時に1年前にプレゼントしたパンツを着用している人も見かけた。(写真8)



写真 8

以上のようなことから、授業の中で学生は次のような変化を示した。

- 1) 自分のパンツを製図から実際に縫い、着装することができたことを実感する。
- 2) 高齢者で車イス使用者のパンツを製作する技術的な面に加えて、高齢者との関わりあいを大切にする。
- 3) 計測の難しさを知り、車イス用のパンツの製図に驚き、ニット地の縫製に戸惑いながらも完成を目指した。
- 4) おむつ着用は、施設で実際着用しているように指導を受け、その着用感の悪さに驚く。
- 5) 最初は高齢者とどのように対応して良いかわからなかったが、4回の訪問で次第に交流が持てるようになった。
- 6) 自分がパンツをプレゼントすることで喜んでいただけただけなのに、心から喜びを感じている。
- 7) パンツを製作したことにより、家族の衣生活にも関心を持つ。
- 8) プレゼント時の喜ばれる姿を見て、衣服も高齢者の生きがいになることに気づく。

これらは、社会福祉コースの学生の授業を計画する上において、最も学んで欲しかったことである。このことは、対象者に合った衣服をどのように工夫して製

作するのかを考え、パンツ製作のみに絞ったことが、その成果に繋がったと考える。この授業で体験した多くの事柄は、今後福祉の勉強を進めていく上でのベースになるものと期待している。

要 約

昨年度から、本学科3年生に「福祉デザイン（衣演習）」の授業を行ってきた。この授業の体験の中から学生は、「車イス使用者の衣服の問題点」「おむつ着用の問題点」「人間どうしの関わりあいの大切さ」「高齢者の生きがいについて」を始めとして大変多くの事柄を学びとったようである。これは、対象者に合った衣服をどのように工夫して製作するのかを考え、パンツ製作のみに絞ったことや、体験学習において高齢者と接したことなどがその成果に繋がったからであろう。

今後は、素材や型紙の検討を始め、おむつ着用後の寸法変化の分析、学生、着用者、施設の担当者の感想などを少しでも授業内容に反映させていきたいと思っている。

謝 辞

この授業を行うにあたりご協力くださいました特別養護老人ホーム「鶯苑」、老人保健施設「弥生ヶ丘」の入所者の方々、看護師さん、寮母さんにお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 小山京子 (1998) 衣服着用に関する高齢女性の意識, 美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要43, 79-87
- 2) 小山京子 (1999) 衣服着用に関する高齢女性の意識 (衣服製作と試着), 美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要44, 120-129
- 3) 高山真佐子, 小山京子 (2000) 施設入所高齢者の衣服についての実態調査, 美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要45, 51-64
- 4) 小山京子, 高山真佐子 (2002) 高齢者の日常着の研究—女性用ポロシャツ—, 美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要47, 37-44
- 5) 渡辺聰子 (2000) 「高齢者・障害者の被服」一橋出版, 東京, 87